

「化学物質と環境に関する政策対話」におけるこれまでの議論の整理
(素案)

1. SAICM 国内実施計画(平成 24 年 9 月)に示されているように、多種多様な化学物質が我々の生活に利便をもたらしているが、その中には人の健康や環境への影響が懸念されるものもある。このため、リスクを科学的に評価し、その結果に基づきリスクをできる限り低減し、また、その過程において関係者が正確な情報を共有しつつ意思疎通を図ることを基本として化学物質対策を進める必要がある。

このことは私たちが生活していく上で重要な事項の一つであり、個人一人一人が理解し、リスクの低減が実践されるよう「化学物質と環境に関する政策対話」のメンバーは協力して取り組むものとする。
2. リスクの低減のためには、その基盤として、
 - 化学物質に関する人材育成及び環境教育を推進すること、
 - ステークホルダー間の情報共有を推進すること、が重要であることを「化学物質と環境に関する政策対話」のメンバーは共通の認識とし、法令、わかりやすさ等の事項に配慮しつつ、必要な取組がなされるよう協力して取り組むものとする。